



古今半田衆

卷第一 半田停車場前

「古今半田衆」卷第一 半田停車場前
平成三十年三月三日和版発行
編集・発行／赤坂 雪江



はじめまして
ぼく茶々丸

趣味はおさんぽ
と、見せかけて、
ぼくは
探偵なのさ。

お想像とまらな
いところかな
ホイニトさ



そして茶々丸たちは
古い地区をたよりに
船のある港にやってきました

十ヶ川

つうん
ここはど
れでも
食持ちがいい



阿久比町南から千田
市を今キ口近く流れ
る十ヶ川の下流部が
通称「半田運河」な
んださ！



この川は、「十ヶ川」
という川だって。

おんはは
「半田運河」
って言うか？



おんおん
大変なんだ。

昨日ママが
古い地図を見ながら
「はんだのなかのはんだ
おもしろい」って言って
たんだ

はんだはわかる？

はんだはわからな
いけど、面白いことば
古めにしてるんだって
こい！悔しいからこ
そり変え止めてやろう
と思ってるんだ



ぼくの助手、
りゅうくと
まなちゃんだよ



大正期の十ヶ川あたり

半田市に本社のある
ミツカンにはむかし中
登船店っていう名前
だったんだって。
十ヶ川沿いに登の倉
庫がたくさん並んで
いたんだって！



そうそう、ぼくの探偵
の必須アイテムは昔の
写真や本や地図だよ。
あ、本を見るのって極
端にツラ大丈夫だ
よ、僕が簡単に解説す
るから気にしないで！



昭和初期の半田泊地

『半田市誌』



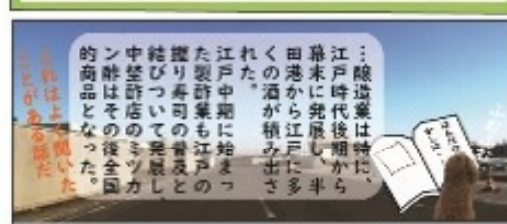
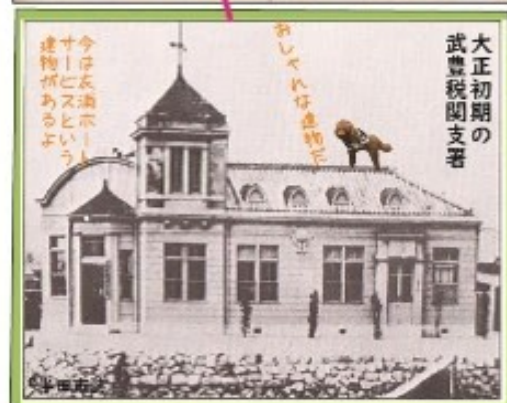
この地図
半田町
築山園路

海があって、
船がいっぱい
あつたんだ

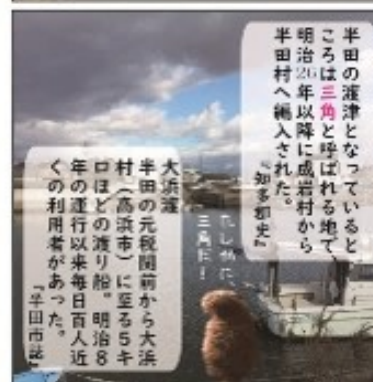
行つてみたら何
分かかるかも
今日の探偵はじ
まり！はじまり！

『半田町案内図』

『半田町史』



△ 明治時代の半田港口
 室町時代ごろから海運が栄えた半田地方は、天文5年(1536)から9回にわたり藩の建設が幕府の手によって行われ、寛永18年(1641)には港防備も設立されるなど、海運基地の整備が進められた。元禄(1680)ごろから採用の貨物を江戸へ運ぶ半田船の時代となり、文政年間から幕末にかけて海運が最も盛んな時期を築いた。明治維新後は内航の時代となり、酒造家などによる内航会社も設立され、明治32年には衣浦湾一帯をもって武豊港とし其後の指定を受け、客夫ともに国際貿易港となった。





三角は、きつと古き良き活気ある港だったんだね。昔のイラストを見ると一気に想像力が増して、景色を見る目が変わってきたよ。



さっきの三角は、海から船が入ってくるころだったよ。ね、じゃあ、入ってきた船はどこいくのかな？



さっきの船は、船の綱を結び付けて固定して、あの木板のあつた出入口から荷物を出したんだ！

江戸時代に、酒や酢を江戸へ船で運んでいたって、言ってるもんね。



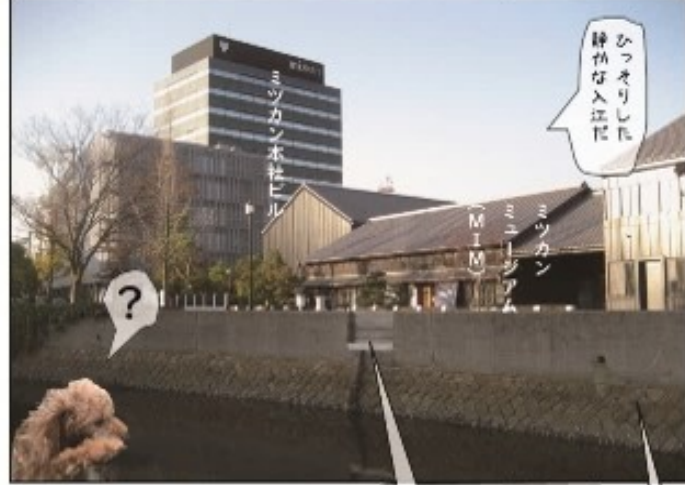
十ヶ川沿いには黒壁の倉庫が、現役を退いてもたずんでいて、



岸に船がついて、荷積みや荷揚げをして、いた頃を想像することができる。



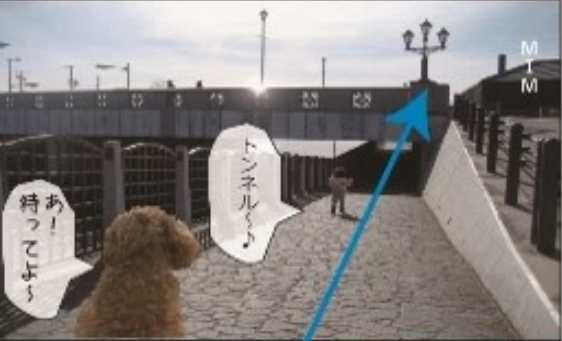
あれ？ ここ、まっすぐいじゃないんだ？



かつオレは、静かな入江だ。



南北に流れる十ヶ川に対して西へ丁字に入っていく入江のよな水路がある。



トンネル？

あ！ 待つてよ！



橋の下を歩いて通ることが出来る。

ひみつ基地みたいだね。

おさかないるかな？

水面は静かで、きれいだ。



石垣につけられた輪っか



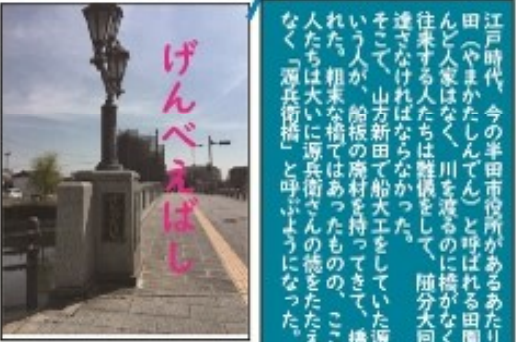
出入口？



鉄の輪っかがある！ それに、この堤防は木の角材何本かが溝にはまって、出入口になっている！



昭和初期の地蔵堂は、船が入江に横向きに建てられている。



げんべえばし



『半田市誌』



源兵衛橋

源兵衛橋のふもとの町名は「源平町」。源平合戦は関係なくて、源兵衛を見栄え良く変えた町名と思われる。

その後、木造の橋、コンクリートの橋になっても、ずっと名前は「げんべえばし」。

何層目かの橋の付替えの折に市が「げんべい橋」と表記した際、地元住民から申し立てがあり、「げんべえばし」に修正したこともあるとか。それほど地元にとっては大事な名前なのだ。

江戸時代、今の半田市役所があるあたりは、山方新田（やまかたしんでん）と呼ばれる田圃地帯。ほとんど人家はなく、川を渡るのに橋がなく、ここを往来する人たちは難儀をして、随分大回りして用を達さなければならなかった。そこで、山方新田で船大工をしていた源兵衛さんという人が、船板の廃材を持ってきて、橋を架けてくれた。粗末な橋ではあったものの、橋を利用する人たちは大いに源兵衛さんの徳をたまたえ、誰いうとなく「源兵衛橋」と呼ぶようになった。

『半田の年表』より

エピソード2
消えた橋の痕跡をさがそう



やあ
茶丸くん

中笠半六郎在住のトトロさん



やあ
トトロくん

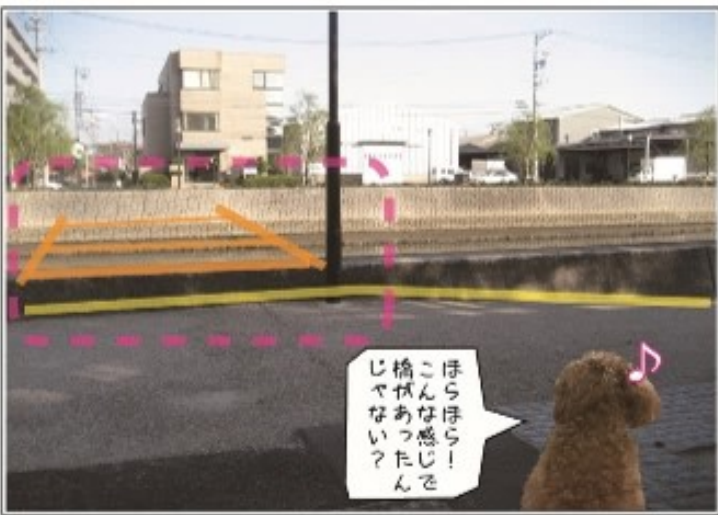
中笠半六郎についてのぞきたくなる痕跡



あ、この細い道を
抜けると、また
半田運河、つまり
十ヶ川が見えるわ

中笠半六郎

酒の文化館



ほらほら！
こんな感じで
橋があったん
じゃない？



うん、それにしては
あんな橋が
うん、あんな橋が
うん、あんな橋が

今の地図には
載ってないし
……あ！



ふう
やっぱりここは
眺めがよくて
気持ちいいなあ

？

中笠半六郎

酒の文化館



こんな時は
古い地図は
いいですね

あつた？！
宮崎橋？

昭和13年地図『半田市勢要覧』



こっちも
あつた！？

わう、
すてきな
たいな橋
だわ

昭和7年地図『半田町案内図』



……
探検の書は
うすく……
……
なんかわかんない？

向こうの方にも
同じように坂道に
なっていて、こっち
には橋があるけど、
さっきのところには
橋がない！



？



あ、あ
今の十ヶ川にたいな
橋があったって
うん、すてきな橋
うん、すてきな橋



なに、橋の
なにか残って
ないか

わわわ！
電柱に宮崎って
書いてある！

NTTプレートのついた電柱の分布図（JR半田駅周辺）



ぼくの調査結果を
電柱の地図に
書いてみたよ

ぼくの調査結果を
電柱の地図に
書いてみたよ

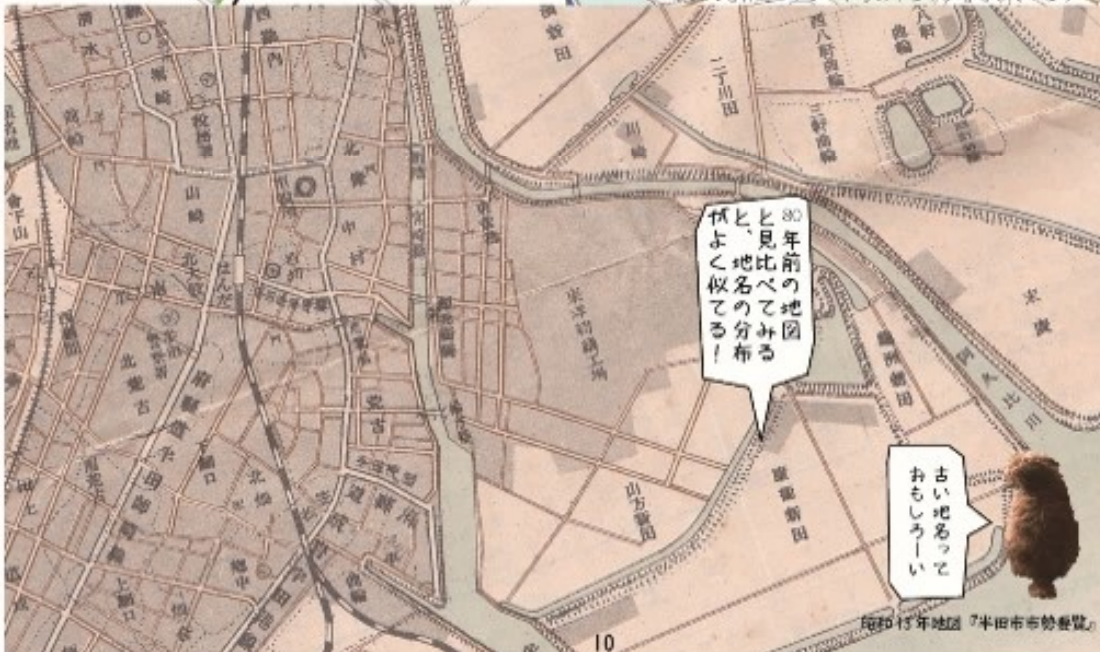
ぼくが
おもしろい
地名を
いろいろ
探してみよう

Subject: Re: NTT西日本に関するご意見・ご要望のお問い合わせ受付
From: NTT西日本 お客様相談センター (soudan@ncc.nippon-cc.jp)
To: 1 yahiro@loop;
Date: 2017/11/16, Thu 15:43

赤坂様
平素はNTT西日本へのご愛顧を賜り誠にありがとうございます。
ご質問いただきました以下二点につきまして回答させていただきます。

■質問1 半田市内に電話線が引かれたのはいつからか？
歴史を紐解きますと、半田市内に初めて電話線が引かれたのは明治36～37年になります。
その当時の加入者数は31加入という記録があります。
出典は社内資料となりますため、一般公開されておりませんのでご了承ください。併せて、
この時代の電話は、現在のものとは技術も提供形態も大きく異なり、もちろん市内のお客様全てに提供出来るものではありません。
その後、昭和の高度経済成長期等々と並行し、技術の進歩や電話込みに対する情熱解消等々の課題を解消し、現在の電気通信設備ケーブル、及び電話サービスが形成されました。
因みに、現在、半田市内で弊社で運用管理している電気通信設備としては、最も古いもので昭和31年のものが現存します。

なお、時代ごとのポリシーはございませんが、主に建設時の地名を参考に命名されております。



30年前の地図と比べてみると、地名の分布が似てる！

古い地名って、おもしろい



現代地図に昭和13年地図を重ねてみると・・・

昔の道路は曲がりくねってたり、境界がアヤブアヤシイところね



番地	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460
町名	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町	船方町
郵便番号	112-847	112-848	112-849	112-850	112-851	112-852	112-853	112-854	112-855	112-856	112-857	112-858	112-859	112-860



手田市の町名は約60年前に大きく変わってほぼ今の町名になったみたいだ

小む小む

こんなときはこれ!



荒古町一丁目と二丁目、これは現在の町名と同じだ

なんか、消した跡がある?

こっちは、荒古町と船方町ってなってる!

こっちは、荒古町と船方町ってなってる!

このあたりの町名は、荒古町と船方町と、消した跡と、内容的には最初の案だった町名っぽい

『早田市土地宝典 地番地積地目入図 (記念市制20周年名称決定地番更正)』奈良正治/編、名古屋住宅協会/発行、昭和35年

『早田市土地宝典 地番地積地目入図 (記念市制20周年町名設定地番更正)』奈良正治/編、西濃印刷/発行、昭和32年



NTTアリートにも、船方橋ってあったなあ

船方橋、たとえば、船方橋があるよ、源兵衛橋と比べるとわりと新しい橋

なんで船方町が荒古と訂正されたのかわからない、理由はよく分らないけど、この「荒古」っていう場所は、昔からいろいろあったところみたいで...

大昔から所属が成る村の村、田村の村の村の村の村の村、明治26年に半田村のものになって決まらされて一応決着したみたい、いかに、なんだからその後も色々あったらうな!

地図で見ると、荒古は河口と港を削るって感じの場所にもなる!



昭和初期の字名にあった北大股と伏南大股は...

江戸時代の村検図でも見比べると古い道や地名がよく分かるよ

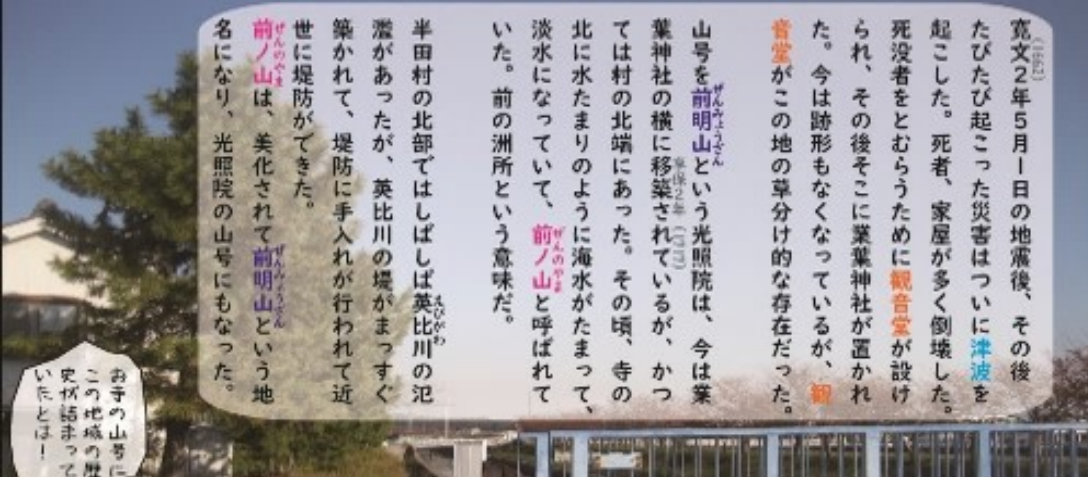
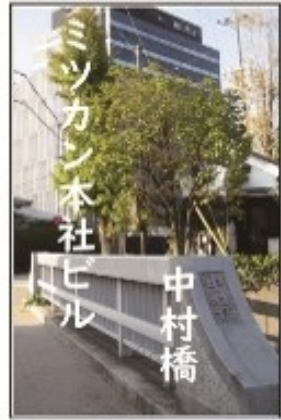
江戸時代の村検図では、「大又」と書かれていて、川沿いの低そうな場所だ

十竹川に何枚って流れる川があったんだね

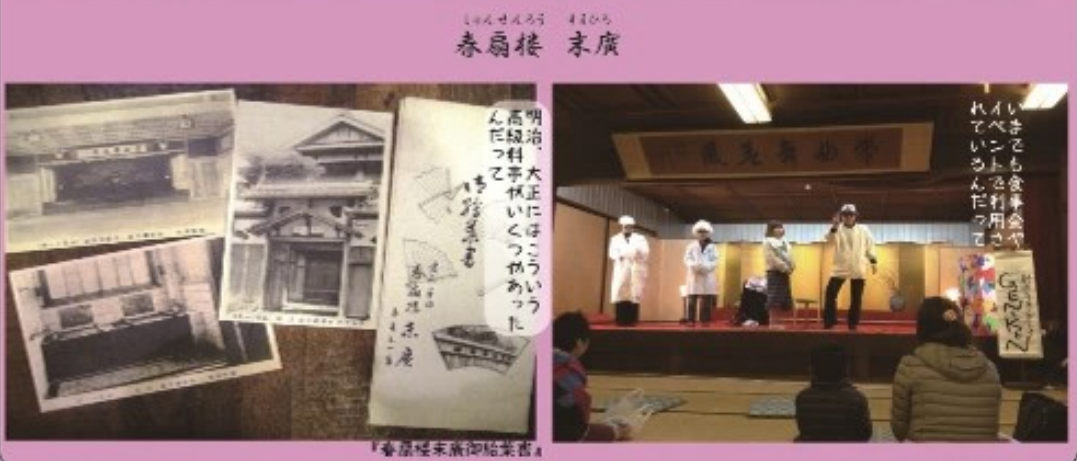
名前は山崎、R手田町の周りにある、どうも水のことイイから

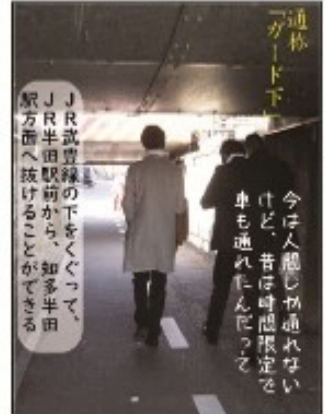
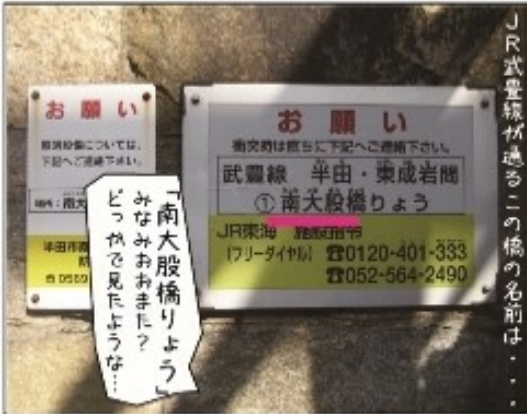


江戸時代の村検図でも見比べると古い道や地名がよく分かるよ



エピソード4
新川どこ行った？







古いから住む
方のお話も
いろいろある

明治天皇が半田へ御
の清習にきたことに
由来する。

御幸通り



平和通り

太平洋戦争時に延焼
を防ぐために赤が立
ち退き広い道路を
作った。黒塗の土
に広いパカ道り
とも呼ばれている。

おういえや、
台風の被害
で、源兵衛橋
から海側は水
に浸った。こ
こまで来た
て言つてはな
げい所なのか



海を埋め立てる
のって大変だ
うなあ

埋め立て
してなくて
じゃなくて
干拓や
えこ重要

ひんごめんな
い！干拓と埋め
立ては違うん
だ？

埋め立てとは
山を崩して海を埋める方法。埋
立ては規模にもよるが、山ひとつ
分の土が必要といわれる。

わ！全然違っ
た！山を崩して海を埋める方法。埋
立ては規模にもよるが、山ひとつ
分の土が必要といわれる。

干拓とは
海を堤防で締め切り、海水を排水
することで現れた海底を陸地とす
ること。土地の造成自体は、埋立
てより手間はかからないが、ここ
でもできるわけではなく、元々か
なり遠浅で掘ることができる自然条件が
揃っていないといけない。



1842(天保12)年



1938(昭和13)年



2018(平成30)年

このあたりは
このあたりは

昔の地図と見
比べてみよう



半田市役所

江戸時代に干拓さ
れた山方新田の現
在の姿は？

このあたりには、かつ
て東洋紡績や中島飛行
機製作所の工場があっ
た。開かれた広い新田
跡ならはの、大きな
宅地利用や、広い道路
が広がっている。



瑞穂町



東洋町



新栄町



東雲町



東雲町～源平町

元一山方新田は
干拓しただけであ
り、すずりつとす
と平地で広い感じ
がするよ

古く工場や民家が多い
民家や個人経営店が並ぶ



1641(寛永18)年より前

戦国時代の地図を新築した地図



寛永18年までは横江の両岸
に船作場があったが、南
方一帯に新田開発して水田
や塩浜にした。寛永以前す
でに造船業が発展していた。
徳川幕府に保護されて発展
した。

へ！戦国時代には
すでに船づくりの
まちだったの

半田新田を作ったがたび
たび水害で壊れた。苦勞
して元禄8年に山方新田
を完成させた。半田村と
成岩村の人が株主。
おうい！、源兵衛橋
から海側の土地は、三百
年前に山方新田ついで
う新田として作られた
の



下半田東組の
手ぬぐい

明治44年に、阿
久比川(下流を
江川とも呼ぶ)
の両岸の堤防に
桜が数千本植え
られて、朱塗りの
橋を架けて、
「東雲橋」として
名所になったん
だって！



『半田の大観』 『らんまん』の撮影地

山方新田ができる前



このあたりは砂洲状の浅海だった。

半田村は長い間、高潮などの水害に悩まされていた。



元禄8年 (1695) 山方新田ができた後



そこで、港の先を干拓して、山方新田をつくった。

新田をつくることで、米なども作れるようになるが、大きな目的は別にあった。

陸と海と船入江をくっきりと分けることで、安定して船が港に出入りできるようになったのだ。

江戸へ酒や酢を運んだ船は、帰りに江戸や伊豆の文化や土産を半田へ持ち帰って人々にひろめた。

土地の形が無理やり変えてまで、この港にこたわったんだね。



戦国時代以前から船大工がいて、この港で船づくりをしていた。徳川家康が本能寺の変の後、この辺りの港から三河へ渡った。その後、この港は徳川幕府の庇護を受けて発展した。しかし、津波や大雨による水害が多くて、港はしばしば壊れて、村は水浸しになり、人々は困っていた。

平安時代後半からは、今の海岸線とブラスマイナス50cmくらいの変動があったくらいといわれているが、それは平常時の海の高さ。たとえば、高潮の被害がどんな感じだっただろうか？

仮に現在の海拔3mラインを結んでみると...

山崎 北大殿 名切

さっき、水に閉居がありそうと思っただけが水に浸かる。そういう時代があったからこんな名前になってるのかもしれない。



あーM.I.M.に舟が壊れて、船を復元して大きくなってびっくりしたよ！

守られ、産業が発展するベースになった。

あんなにおっきな船なら、さあ、お酒や酢なんかを江戸へ一気に運べるよわ。

もっさい大きな土木工事まで、みんなの願いが実現したんだね！

エピソード
はんだってなんだ？



ここまで結構お散歩の
深検してきて、なんと
なく分かってきた気も
するけど、



あの地図でいう「はん
だのなはのはんだ」が
なんなのかな、まだよく
分かってないな



そもそも、
半田って、
なんで半田って
いうんだろ？



半田、半田、
はんたのなはの
はんだ！



あ、
JR半田駅だ

半田駅は、武豊線が開通した明治19年、今
よりちょっと北側に作られた。
武豊線は、のちの東海道線の建設にあつた
て、武豊港からの建設資材を運ぶためにつ
くられた鉄道。

「半田」の語源

諸説あり

- ◆「半田」という地名は、日本各地に、古くからいくつも存在する
- ◆由来は諸説あり

- ①ハニ田
「ハニ」(畑)+「田」=新しく切り開いた土地
さかん(はんた)むら さかん(はんた)ごう
- ②坂田村、坂田郷
一文献史料があって根拠として強く、
有力視されているが真偽のほどは分からない
 永正10年(1513)順正寺阿弥陀如来絵像の裏書に「知多郡坂田郷」
- ③土田荘 土田衆(織田家の守備隊)がいた説
つちのたのしよう
- ④繁駄 酒、木綿などの産物が多い
はんた
- ⑤喰田 田に稲がたくさんある
はみた
- ⑥般若の里 梵語で智恵を般若という、才知ある風流人が多い里
はんじや

田んぼが半分だ
からっていう説
はないのね
ハッキリこれ！
っていうのは
ないんだね

『半田町史』
(大正15年)

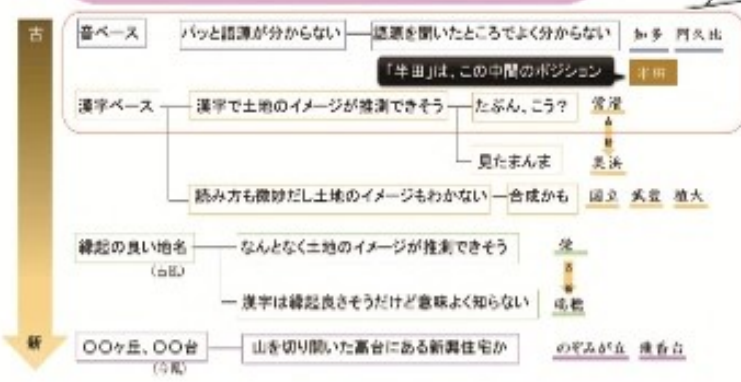
『半田町史』
(大正15年)

十返舎一九『半田里の記』
(1800年代に半田の友人
宅へ遊びに来た時、半田
の印象を扇面に書いた)

若はどれだと思
う？自由に想像
してみようよ

地名の古さをなんとなく見分ける方法

茶々丸の理窟によるものであり、必ずそうとは限りません



君の住む町の名前は、
どれに当たるかな？



△ 開通当時の国鉄半田駅
明治19年3月1日に国鉄武豊線(武豊・熱田間)が開通、東海道線の
建設に大きな役割を果たす 『半田市誌』



国鉄の「エ」マーク
の入った境界杭
開通当時の武豊線は国営省線の国
鉄「工部省鉄道局」に所属してい
たところから、このマークが入っ
ている。



草むらの中に、
国鉄時代の看板
や境界杭が残っ
てるのを見つけ
たよ



警報が鳴りだしたら
この踏切あしや断崖は
自動的に閉鎖します



春



夏



秋



冬



朝日が静かに照らすと、
まちは少しずつ動き出す





川の形や場所が変わっても
川と海が混じるこの水辺で
暮らしてきた生き物たち



瓦、黒塀の蔵のある風景
ここは人間や動物の生活の場





時代をこえて
人々をつないできた祭



十ヶ川にゆらぐ光が
見る人の心をゆらす



ガード下のあつちとこつち
半田駅前に静かな夜がひろがる



宮崎橋には今はない物をAR機能も利用し、再現する。

AR

NTT社の「AR」機能も利用し、再現する。
- AR機能も利用し、再現する。



地域包括ケアの一例として、昔の事を知る高齢者が、
中高生らに向けて福祉教育を行うことで、世代間交流を図る

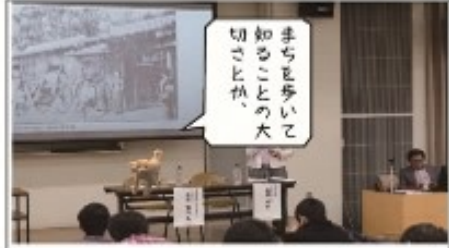
VRで仮に車椅子の方が行けないところまで
半田の街並みまで体験できることかである。

エピソード 8
学生さんたちのアイデア

2018年1月
日本福祉大学半田キャンパス
「COC」DAYプログラム

「こないだ
にっぶくの学生
さんに半田の紹
介を兼ねて、

「ぼくが探偵した
「なせ半田が半田の
中心になったのか？」
を話したんだけど、



わたしは先生が「今日は授
業中スマホOK」って言って
くれて、「アプリを使って、
素直な意見がたたくさん出て
おもしろかったよ



Go to www.menti.com and use the code 811878

興味深い！おもしろい！疑問？質問！？

まだ国旗の名残が残ってるとは思わな
かった

ハミタの旗のほうがしっくりきた

源兵衛さんえらいこっちゃなっちゃった
よ！びっくりしちゃうよ！

志あんって新巻のあんこみだい僕はつぶ
あん流です

ミツカン本社がここにあるのは驚きでし
た

ぼくの話聞いてもらったら後
学生さんたちが
歴史と文化を活かして
何かできるかな？って、
何気ないアイデアを
出してくれたんだ！



商店街の復興
牛高も復興
の復興作業

「ぼくはぼく
「半田の歴史を
前を掘るところから
はじめよう」ってき
てくれたアイデア
お気に入りだよ



合へ物 MAP (AR, PC等)
→ そのおかげで周辺の歴史を一緒に
紹介する

開発者
ARは視覚学習で、
知識、現状化現状のARで歴史、文化は、
ARで歴史、文化は、

半田キャンパスの、
学生さんたちが
歴史と文化を活かして
何かできるかな？って、
何気ないアイデアを
出してくれたんだ！

駅改修 見直し
今も残っている道を道が風か、明治時代に戻して、
古い町並みも活用できるように再現する。

学生さんのアイデア

みんなのアイデア

歴史を専門性に活かす

ARに地域の情報を
学習させる

半田駅再開発

池や沼の水を張く

橋架、地下工事

電柱がスマホで撮ると昔の風景

昔の情景を再現

ドキュメント映画

赤レンガ

半田市の昔の風景を再現

半田市人生ゲーム開発

ミツカンCMを半田で撮影

スタンプラリーアプリ

PR

半田市のグルメマップアプリ

ペットハンター、半田を歩く
ペットハンター

携帯AR

奥と牛を扱う

S/Lを定めれば

自然素材を活用

わたしは先生

ぼくが仮の全持ちに
したいよ



『知多郡史』(下巻) 愛知県知多郡役所/編、大正十二年
 『半田町史』 愛知県知多郡半田町/編、大正十五年
 『半田町案内図説』 関三郎/作図、昭和七年
 『成田町史』 愛知県知多郡成田町/編、昭和十一年
 『半田市勢要覽』 半田市役所/編、昭和十三年
 『半田の大観』 半田市秘書課広報係/編、昭和二十七年
 『半田市新町名新地番説明書』 愛知県半田市/編、昭和三十一年
 『郷土誌本ほんだ』 半田市郷土誌本編纂委員会/編、昭和三十一年
 『名古屋書書誌録』(第三巻) 寛文村々管書(下) 名古屋市教育委員会/編、昭和四十一年
 『名古屋書書誌録』(第八巻) 尾張村行記(五) 名古屋市教育委員会/編、昭和四十四年
 『衣浦港十年の歩み』 愛知県土木部港湾課/編、昭和四十四年
 『衣浦港十年の歩み』 衣浦港史料(第一巻) 愛知県水産漁業課/編、昭和四十四年
 『半田市誌』 資料編・村給図巻 半田市誌編さん委員会/編、昭和四十九年
 『半田市水道通水五十年誌』 半田市水道部/編、昭和五十五年
 『世間の館「寂野」』 澤田ふじ子/著、昭和五十六年
 『七人の又左衛門』 奥野、ミツカン百八十年の足音―中笠商店創業百八十年記念誌編纂委員会/編、昭和六十一年
 『愛知商業貿易図説』 ブックショップマイタウン/編、昭和六十二年
 『半田市誌』(上・中・下巻) 半田市誌編さん委員会/編、平成元年
 『写真集 半田・南知多(武豊・美浜・南知多)いまむかし』 名古屋郷土出版社/編、平成元年
 『海と川 船がたつた世界』(中巻) 笠原文書にみる研流りの歴史と文化(4) 日本福祉大学知多半島総合研究所・博物館「研の里」/編、平成十年
 『半田ガランチと成田ガランチの由来』 半田町と成田町の紛争「花古事件」の顛末「河合克己」著、(ふなむ) 第七十五号、南知多郷土研究会/編、平成十五年
 『一衣武豊線の鉄道遺産(1)』 『尾張遺産研究』 第十号、中部尾張遺産研究会、平成十五年
 『武豊線物語(本冊)』 C11265 養乳機関車保存会/編、平成二十年
 『武豊線物語(記録・写真集)』 河合尚平/著、平成二十一年
 『武豊線物語(記録・写真集)』 片山三三/著、平成二十六年

あとがき

あなたの「ふるさと」は、どこにでもあるまちですか？
 誰でも心の中に「ふるさと」のイメージを持っています。家族、友達、景色、におい、食べ物、思い出、それは人間が大地とともに作りあげてきたもの。
 災害、開発、「ふるさと」がなくても生きていけるけど、
 当たり前前にあった風景がなくなると思うと、なんか寂しい。
 新しく便利に変わっていく魅力と同じくらい、
 変わらないうえそこにあり続けることも難しいことなのです。
 一度、
 当たり前前にもそこにある生活風景を、じっくりと見てみてください。
 ネットの情報は正しいとして、自分の五感で感じてみてください。
 「ふらふら」って坂になつてるんだ
 どうやら水が千〇千〇〇口流れる音は聞こえる
 次は、その町に長く住む人とお話ししてみてください。
 昔はここは川が流れていてね
 自分が感じた風景が、まるで動き出すように思えてくるでしょう。
 感じたこと、ほんのり知った情報、
 結びつく好奇心や想像力がムクムク出てきて、
 目の前の景色がナゾを秘めた光景に見えるでしょう。
 じゃあ、ここは昔何だったの？
 古くから住む人はきっと喜んで話してくれそうです。
 土地の未来を知ると、いま見えている景色の深みを想像できて、
 今度は、未来にこの景色がどうあってほしいか、自然と妄想するでしょう。
 そんな風に妄想できるひとがいっぱいいたら、
 たどえ景色が変わってしまったとしても、
 きっと「ふるさと」はなくなったりしないと思うのです。



心の目VRゴーグルをつけて、お散歩してみよう。



半田まちじゅう博物館
 hanpaku
 http://hanpaku.com/

著者紹介

茶々丸(ちやちやまる)
 平成二十三年生、半田市花園町在住。トイプードルの。
 きれいな女の人とスリッパを取り合いっこするのが好き。その意をくんでくれる好みの女性が家に来ると膝の上に居座る傾向がある。散歩好きが高じて健脚で、六時間歩いても抱っこは苦めない。
 上から目線で子どもたちの生活をつづる茶々丸の日記はコアなファンが多い。色白のお嬢さん募集中心。

赤坂 雪江(あかさか ゆきえ)
 昭和五十九年生。常滑市出身(旧経濃田)、半田市花園町在住。
 奈良女子大学で考古学や古代文化を学びながら、平城京や古墳の発掘に熱中。現在は半田市役所にて勤務。
 かつて地域活性の仕事で、地域の方々のアツイ熱意と行動力に感動された経験から、自分も生涯を通して、好きな分野で知多半島のおもしろさを伝えていける人間になりたいと夢見し、情報サイト「半田まちじゅう博物館」(hanpaku.com)を開発(自営部長)。とりわけ故郷においていたが、消えていくかもしれない風習や文化、歴史が忘れ込んでいる生活風景を切り取り、魅力の理由を深る過程をたのしんでいる。



先人たちの記録はとってもおもしろいよ
 図書館の郷土資料コーナーにもたくさんあるよ



ご協力ありがとうございます
 日本福祉大学の皆さま
 山之神サロンの皆さま
 地域の皆さま